

# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年8月29日月曜日

## 誤って削除したアプリケーションを回復する

誤ってアプリケーションを削除してしまっても、削除したアプリケーションと同じIDのアプリケーションを作成した後に、過去のアプリケーションをエクスポート/インポートすると、削除したアプリケーションを回復することができます。

例えば、アプリケーションIDが102のアプリケーションパラメータ付きレポートを誤って削除してしまった状況を考えます。



アプリケーションが削除されると、アプリケーションを開くことができないためエクスポートの機能も呼び出せません。

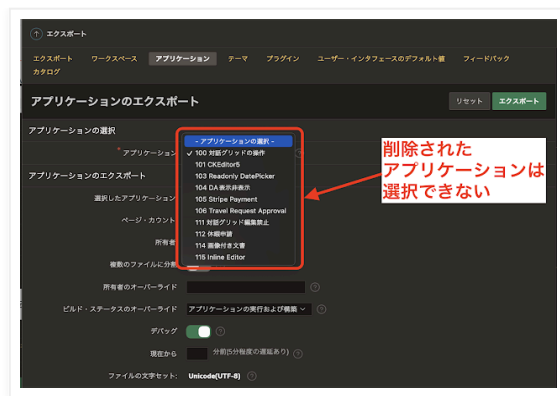
ワークスペース・ユーティリティのエクスポートを開きます。



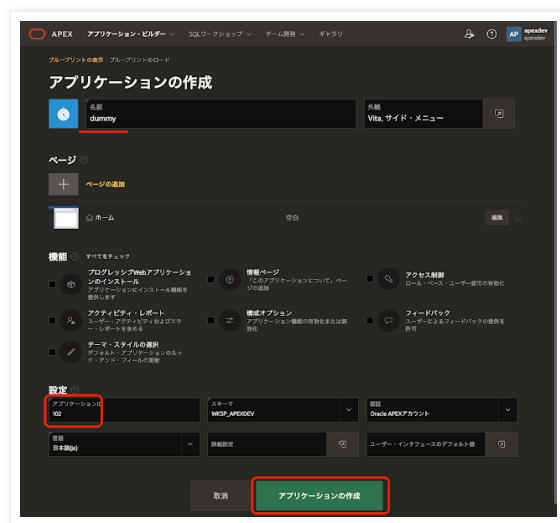
エクスポートする対象としてアプリケーションを選択します。



削除されたアプリケーションは選択リストに含まれないため、エクスポートできません。



そこで、**アプリケーション作成ウィザード**を起動し、**アプリケーションIDが102**（回復するアプリケーションのアプリケーションIDと同じ）のアプリケーションを作成します。アプリケーションの**名前**はなんでも構いませんが、回復するアプリケーションも含めて、他のアプリケーションとは異なる名前（英数字が望ましい）にします。今回の例では**dummy**です。



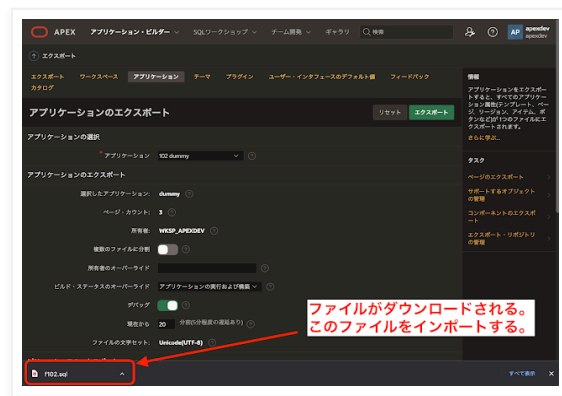
アプリケーションが作成されたら、エクスポートを実行します。

**現在から〇〇分前**の指定として、削除されたアプリケーションが確実に存在していた時刻となる分を設定します。以下の例では20分としています。

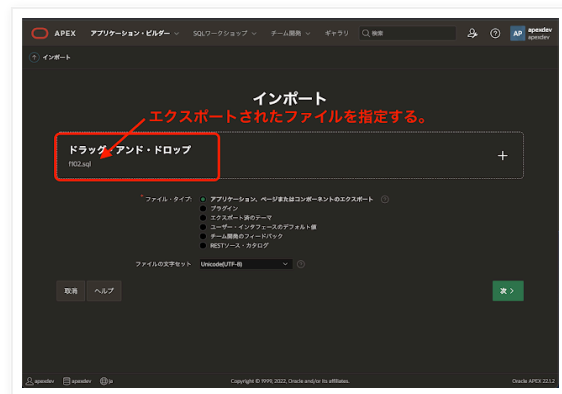
**エクスポート**を実行します。



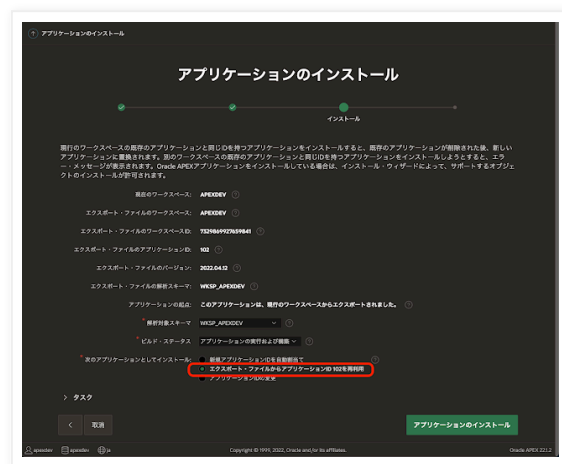
ファイルがエクスポートされます。続けて、エクスポートされたファイルをインポートします。



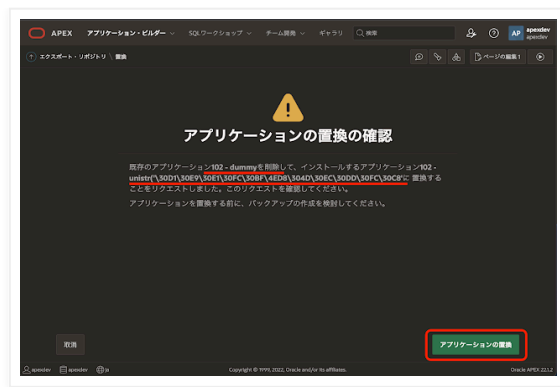
インポートを実行し、エクスポートされたファイルを選択します。



予めエクスポートされたファイルを確認しアプリケーション名に間違いがなければ、次のアプリケーションとしてインストールに、エクスポート・ファイルからアプリケーションID 102を再利用を選びます。確信が持てない場合は、新規アプリケーションIDを自動割当てを選んで、一旦別アプリケーションとしてインポートします。



アプリケーションを置き換える場合は、アプリケーションの置換を行う確認が求められます。表示されているメッセージに、置き換えられるアプリケーションの名前と置き換えるアプリケーションの名前が表示されるので（置き換えるアプリケーションの名前はUnicodeそのままなのでわかりにくいですが）、それぞれ間違いが無いことを確認します。



インポートが完了すると、削除してしまったアプリケーションが回復していることが確認できます。



削除したデータが回復できるのはデータベースの初期化パラメータ **undo\_retention** に依存します。設定値を確認し、その期間内にエクスポート作業を実施する必要があります。

残念なことに **undo\_retention** が有効な期間内にエクスポートができなかった場合は、直近の変更までを回復する方法はありません。その場合は、自動的にバックアップされているアプリケーションより、最近のアプリケーションを回復します。

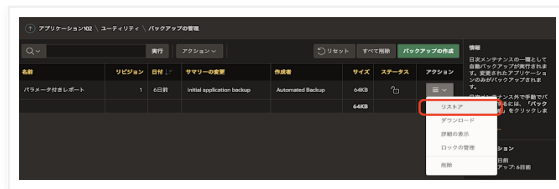
ワークスペース・ユーティリティのバックアップの管理を開きます。



リストア対象のアプリケーションを開きます。

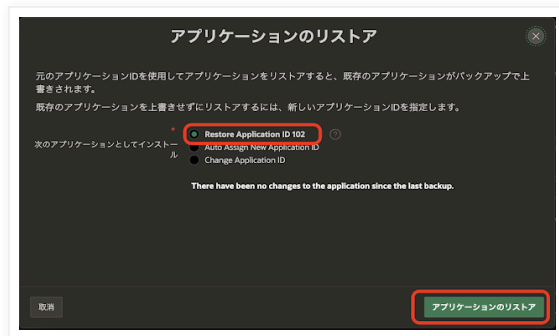


アクションからリストアを実行します。



次のアプリケーションとしてインストールにRestore Application ID 102を選択します。

アプリケーションのリストアを実行します。



直近ではありませんが、これで最近のバックアップより削除されたアプリケーションを回復することができます。

完

Yuji N. 時刻: 21:41

共有

<

ホーム

>

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。  
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.